

地域ケア会議

鹿児島市地域包括支援センター 谷山北

【計画】

作成担当者： 宮内 泰明

開催日時	平成30年09月26日 14:00 ~ 16:00	開催場所	谷山北公民館
参加者	介護支援専門員：21人、福祉用具専門相談員：1人、地域包括支援センター職員：6人		
	総数 28人		
内容	テーマ	事例を通じて谷山北圏域の高齢者の状況や地域の特性を知り、理解を深めるとともに、圏域における課題や不足する社会資源について皆で検討していく。	
	目的	谷山北圏域についての理解を深め、情報共有を図るとともに、最終的には参加者で協力して地区診断を行うことができる。	
	概要	①事例紹介「介護予防地域ケアについて」 ・事業の説明と検討した事例の紹介 ・自立支援に向けた事例の紹介 ②事例から地域特性を考える ・五ヶ別府地域のケースについて（事例提供者：中山クリニック）	

【結果】

開催日時	平成30年09月26日 14:00 ~ 16:00	開催場所	谷山北公民館
参加者	介護支援専門員：21人、福祉用具専門相談員：1人、地域包括支援センター職員：6人		
	総数 28人		
内容	【内容】 ①今年度より当法人が実施している、「介護予防地域ケア会議」について、事業の説明を行い、第1回目の実施内容の報告を行った。また、自立支援に向けた事例の紹介として、前年度吉野事業所で開催した地域ケア会議（実務者会議）からの引用事例を紹介した。内容は介護サービス利用者が、サービスを卒業し、就労につながった事例。このような事例ばかりではないが、サービスからの卒業を意識したケアマネジメントの重要性や、卒業後の受け皿づくりが喫緊の課題であることを説明した。 ②今年度初めに、圏域内の五ヶ別府という地域で、認知症による徘徊事例が発生した。その際、担当ケアマネジャーより当センターにも相談があり、家族を招いてケースカンファレンスを開催したが、その事例を振り返り、圏域内でも特に社会資源の少ない地域である「五ヶ別府地区」をケアマネジャーの皆さんと一緒に検討する機会を設けた。認知症高齢者の徘徊が発生した際の社会資源として「見守りメイト事業」「安心ネットワークメール事業」を紹介したが、現在五ヶ別府地区には、メイトが不在であり、民協会長を通じて、地区担当民生委員のメイト養成を依頼している。また、福祉用具貸与として、南洲メディカルの協力を得て、徘徊探知機を紹介していただいた。今回、五ヶ別府地区に焦点を当て、スクリーンに地図を投影しながら、人口、高齢化率、商店やスーパー、医療機関（なし）、介護事業所（なし）、公民館、バス停、移動販売の停留所などを示し、また会場のケアマネジャーから情報提供を受けながら五ヶ別府地区を確認することができた。事例提供の認知症高齢者の徘徊についても、自宅の場所と翌日発見された場所を地図で表すことで、事例が身近なものとして感じる効果もあったのではと評価する。		
	【成果】①居宅介護支援事業所でも、事業所内での事例検討会を開催しているが、多職種での事例検討については機会がなく、実際に提出した事例を通じて、参加者のケアマネジャーより「自分達の事業所では、多職種を交えての事例検討会は難しいが、専門職からの聞き取りや、多職種協働についての啓発、促進につながったのではと評価する。 ②マッピングの手法を用いて、事例を振り返ることで、担当者だけではなく、参加者もその利用者が生活する環境をイメージすることができた。居宅介護支援事業所でも、マッピングを用いた事例検討が拡充することで、社会資源を知ることができ、地域課題の抽出につながるのではと評価する。また、今回は五ヶ別府地区に焦点を当てたが、圏域内の他の地区でも実施することで、ケアマネジャーと協働での地区診断につながるのではと考える。		
今後の課題など	・五ヶ別府地区における見守りメイトの養成 ・移動販売のルート拡大（必要性に応じて） ・圏域内ケアマネジャーに対して、「安心ネットワークメール事業」のサポーター登録者の拡充		